

回天十型配備計画腹案

—「回天隊配属状況一覧(回天十型展開配備案を含む)」より—

昭和 20 年 8 月



大神回天基地資料

- ・ 本資料は防衛省防衛研究所「回天隊配属状況一覧(回天十型展開配備案を含む)」の資料から編集したのになります。
- ・ この資料作成にあたり何度も見直していますが、間違いがあるかもしれませんので、本資料の副次的なものとして扱ってください。
- ・ 本資料の著作権は JARIN に帰属します。
- ・ 本資料を取り扱ったことによる損害等に関して、こちらは一切関知しませんので、ご了承ください。
- ・ 原資料に関しては防衛省防衛研究所に問い合わせください。
- ・ 引用や再配布は問題ありませんが、事前に連絡をしてください。

一、回天十型配備腹案成立経緯

- (イ)回天一型は潜水艦作戦に使用し威力絶大なることを証せらる
- (ロ)回天四型の整備遅延しその見込つかざると共に回天一型の増産はその限度に達しあること
- (ハ)余剰九二式魚雷を射堡発射よりも有効に使用せんとし実験の結果概ね所期の目的に合致するに至りたること

二、腹案成立の時機

昭和 20 年 7 月 16 日各鎮各警宛配備位置概要を照会

三、回天十型 予想主要要目 使用方針等

(イ)主要要目

炸薬量 300kg

馳走能力 8kt 20000m

最大速力 14kt

重量 2.5t

全長 9m

胴径 0.7m

耐圧深度 20m

(ロ)使用方針

碇泊艦攻撃に主用す(航行艦攻撃は特別の場合の外困難)

(ハ)基地施設

震洋基地施設に準じ格納庫及斜路を構築す(既設震洋格納庫にして使用せざるものを成す可く流用す)

但し海岸より稍内陸に引き込み隠蔽し置き陸上機動により使用することに関し研究中

四、配備腹案の変更

昭和 20 年 8 月 11 日中央指令

対馬海峡方面防御強化として、呉鎮方面より転用することにより回天十型を対馬え 24 基配備のことに考慮中

(終)

回天十型配備計画案

昭和20年7月10日 軍令部一部

区分	配備地	展開予定			
		合計数量	8月中	9月中	10月中
横鎮	九十九里浜・鹿島灘 (小名浜及勝浦を含む)	24	24	0	0
	浦賀水道 (館山湾を含む房総西岸三浦半島東岸)	60	0	36	24
	相模湾 (伊豆半島東岸 三浦半島西岸)	36	0	36	0
	伊勢湾付近	48	0	24	24
阪警	紀伊水道	60	0	48	12
呉鎮	四国南部	48	24	24	0
	豊後水道 (宿毛湾佐伯湾を含む)	60	24	24	12
佐鎮	有明湾付近	36	36	0	0
	鹿児島湾付近	36	24	12	0
	九州南西部 (牛浦天草を含む)	60	36	24	0
	九州北西部	36	0	0	36
計		504	168	228	108

生産予定			
場所	8月中	9月中	計
横	30	60	90
呉	70	120	190
光	50	50	130
佐	50	80	140
練成用	8月	9月	
呉	20	30	

※防衛省防衛研究所「回天隊配属状況一覧(回天10型展開配備案を含む)」二復資料より

※本資料には「腹案」の一覧表があったが、「腹案」の数量は「配備計画案」の数量配備と同数だったのでこの配備計画案に統一した。